

— 転載論文 —

## 異なる生活環境集団における

### 保育園児の食習慣とアトピー性皮膚炎との関係

眞弓明子<sup>1</sup>、中川祥治<sup>2</sup>、田淵浩康<sup>2</sup>、木村友昭<sup>3</sup>、太田正保<sup>4</sup>

<sup>1</sup>医療法人財団玉川会 エムオーエー奥熱海クリニック、<sup>2</sup>公益財団法人農業・環境・健康研究所、<sup>3</sup>一般財団法人 MOA 健康科学センター、<sup>4</sup>医療法人社団慈生会 梅園ヘルスケアクリニック

#### 要 旨

食習慣の改善による保育園児のアトピー性皮膚炎(以後、AD)への対策法を発展させるため、園児の特性や生活環境ごとに集団を分割し、食習慣と AD との関係解析した。データの収集は静岡県東部の M 保育園において、2005～2007 年度に入園した 3 歳児 116 名全員を対象とし、卒園までの 3 年間、毎年 2 回行った。園児の AD の重症度判定は園医が行ない、園児の食習慣、特性および生活環境は保護者への質問票により把握した。食習慣に関する各項目の実行頻度と AD 重症度間のスピアマン順位相関解析を行ったところ、性別、乳児期栄養および床材質など特定の特性や生活環境で分割したいくつかの園児群において、朝食摂取、大豆・大豆製品摂取、牛乳・乳製品摂取、市販弁当・惣菜摂取および偏食は AD 重症度を低下させる傾向が、また、肉類摂取、小麦製品摂取、菓子類摂取は AD 重症度を上昇させる傾向が示された。さらに、これら傾向がみられた食習慣それぞれについて、AD 重症度に対し低下あるいは上昇の傾向が同一であった 2 つの群両方に属する園児を対象とした同相関解析では、より強い関係が確認された。例えば、偏食は人工乳群において最も高い AD 重症度との有意な負相関を示し、次いで集合住宅群においても負相関があるが、これら 2 つの群にまたがる園児集団では、より強い負相関 ( $\rho = -0.833, P < 0.001$ ) となった。

#### キーワード

アトピー性皮膚炎, 保育園, 園児, 食習慣

---

本論文は日本栄養士会雑誌第 29 巻 第 7 号, 24-31 (2016) に掲載された論文です。  
転載にあたり、日本栄養士会の了承をいただきました。